

助成研究題目：宮古島に移住し農業を始めた人のインタビュー調査

卒業論文題目：病院やスーパーに頼らない自然と共に生きる自給自足生活 - 脱都会田舎暮らし志向者のフィールド調査 -

卒業論文について

沖縄県宮古島に都会での生活を捨て、田舎暮らしを送っている人々がいる。都会出身の6人と宮古島で生まれ育ったみやこんちゅ1人の協力を得て行ったフィールド調査を行った。その結果、彼らの生き方にはいくつかの共通した考え方を持っていることがわかった。共通している点は大きく分けて田舎暮らし志向、自然主義、自給自足志向の3つである。

調査協力者の中にはアフリカやブラジルなどに長期滞在した人もいて、文明の利器に頼り切らない生活を理想とする、田舎暮らし志向を共通して持っていた。そして、この田舎暮らし志向を実現する場として、文明の利器に頼り切りの都会生活を捨てて、宮古島を選んで移住してきたことが分かった。

こうした田舎暮らし志向は、移住後の生活にも明確にみられ、自然主義的なものを感じた。移住者は部外者ということで、島民との間に移住当初は壁もあったが、地域活動に積極的に取り組む姿勢が評価されてすっかり溶け込んでいた。宮古島の独特の風土に適した農作方法を伝授されていたところや、先祖代々守られてきた家屋や畑を部外者である移住者達が借りられていたところからも受け入れられていることが見て取れた。

移住者たちは宮古島で行われている宮古島の風土にあった独自の農法に加え、無農薬栽培はもちろん、人工的な手入れを極力行わないで作物を育てる自然農法などを行っていた。また、病気の際は西洋医学を用いる病院には頼らず、東洋医学的なハーブ治療や食事面での改善を目指す自然療法を好んで行っていた。

このような自然療法に加えて、彼らは基本的に自給自足を共通した未来像とし、食事から電気まで全てを宮古島内で供給する完全なる自給自足の実現に向けて日々の暮らしに取り組んでいた。彼らは仕事をお金儲けのための手段と捉えるのではなく、理想を叶えるための手段として考えていた。そのため、宮古島で理想の農業生活をしながら、次なる理想の完全なる自給自足生活の実現を目指し生活していた。

最後に、この論文を書くにあたって後押しして下さった故川上宏先生とそのご家族に、改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

謝辞

本研究を行うに当たり調査にご協力いただいた宮古島での移住生活をお聞かせくださった7人の皆さま、ご協力ありがとうございました。インタビューでお話ししてくださった皆さまの熱い人生観はいまでも私の宝物として、自身の選択に迷ったさいに思い出させていただいております。私事ではありますが、就職活動直後ということもあり、もっと給与や社会保障にこだわるべきだったかと悩んだ時期もありました。しかし、皆さまの仕事の価値観を始め、宮古島での生活で叶えたいことやお子さまとご家族への愛を熱く語って聞かせていただきどれほど救われたことか計り知れません。「仕事はお金ではない」この一言には様々な想いが詰まっていると思います。

私自身まだ社会を経験したことがない若輩者ではありますが、今後社会に出て仕事をしていくうえで、家庭を持ち生活していくうえで、お金より大切な「自身の信念」を何よりも大切に生きていきたいと思っております。ありがとうございました。

並びに、本論文を執筆するにあたり、指導していただいた南教授に感謝いたします。正直なところ、入学当初から南先生の講義は厳しいからとらない方がいいという噂がまわり避けていた南先生の基礎演習を2年次で選択すると、毎週課題があり、他の基礎演習と比べてもとても大変なものでした。3年次の演習も南先生の演習を選択するかとても迷いましたが、マスコミ学科に入ってこれとって勉学に打ち込んだ覚えもなく、それならば1つくらいちゃんとした授業をとろうと思ひ至り演習をとりました。

しかし、実際に演習が始まると毎週のように課題が課され、他の演習を選択した友人たちの話を聞くたびに恨めしく思う日々でした。ですが、後期になると課題を苦に感じることもなくなり、他の授業のレポートも、南演習の課題に比べれば楽すぎると感じるようになりました。

学業の面でも成城大学に入ってよかったと心から思えるようになったのは、ひとえに南先生が幾度となく丁寧に的確な指導をしてくださったおかげでございます。3年間ご指導頂きまして、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

平成 25 年 12 月 19 日